北海道方言における文末詞「サ」の分布と意味

松浦年男（北星学園大学）　岸本宜久（北海道大学大学院）
yearman@kyudai.jp

1. はじめに

北海道方言には(1)や(2)に示すような文末詞「サ」がある。

(1)　A：昨日のテストどうだった？
　　B：それが雪降っちゃって，行けなかった**サー**

(2)　実例（短文投稿サイト twitter より）
　　@Car0liNe_rob：@yuuki_chaan どうなるんだろう〜私多分 21 日引っ越しださ、、、なまらバタバタ(笑) (笑) (笑)
　　https://twitter.com/Car0liNe_rob/status/696252897839845376

これらは標準語における文末詞「サ」とはいくつかの点で異なっており, (1)や(2)はだいたい「ヨ」に対応する。標準語にも文末詞として「サ」はあるが，それは(3)のように断定を表し，文末以外にも(4)のように文節に挿入する間投用法を持つ（益岡・田窪 1993: pp.52-53）。

(3)　断定のサ（益岡・田窪 1993: p.52）
　　俺はどうせ馬鹿な男サ

(4)　文節に入る「サ」と文末詞の「サ」
　　昨日サー，おまえサー，彼女とサー，家にサー，いた{っしょ／*サー}

また，断定の「サ」はキザなキャラを想起させることがある。

(5)　キザな「サ」
　　A：B くんってスポーツでも，勉強でもなんでもできてすごいねー
　　B：いやぁ，そんなことないサー

一方，(1)や(2)に示した北海道方言における文末詞「サ」にはそのようなキザなキャラを想起させることはない。

それでは，北海道方言の「サ」はどのような意味なのだろうか。本稿では第 2 著者（1989 年，富良野・札幌出身）による内省判断に基づいて，(6)に示す結論が得られることを示す。

(6)　本稿の主張
　　北海道方言の「サ」は，その前の節（命題）にあたる意味内容が聞き手の領域に存在しないことを表す。

この主張にとって根拠となるのは「サ」の使用に関わる分布である。「サ」の使用には(7)に示す制限がある。

(7)　根拠：「サ」の分布
　　a.　聞き手に関する事柄については，聞き手がその内容を知っているか知らないかに関わらず使えない
　　b.　聞き手以外に関する事柄については，聞き手がその内容を知らないときのみ使える

以下，第 2 節では本稿の根拠となる事実について整理しながら述べる。続いて第 3 節ではこれまで提案されてきた仮説について検討する。第 4 節は北海道方言「サ」に関する他の言語的事実について整理する。第 5 節はまとめと今後の課題である。

2. 「サ」と聞き手の知識

2.1. 聞き手にとって既知の事柄

聞き手にとって既知の事柄の場合，(8)の制限がある。例として(9)から(11)を挙げる。

(8) 「サ」の使用と聞き手の知識 1
聞き手にとって既知であることが自明な事柄を表す文ではサは使えない

(9) 聞き手の事柄
a. （前回授業を休んでいた人に向かって）
*あれ，そういえば，前回の授業休んでいたサー。
b. （大学合格を報告してきた生徒に向かって）
*いやー，ホントによかったサー

(10) 話し手自身の事柄
*昨日おれ，先生に叱られちゃったサー（聞き手も見ていた）

(11) 第三者の事柄
（夜にやってたサッカーの試合で日本代表が負けた次の朝）
A：昨日のサッカー，日本負けたんだって。
B：*そんなこと知ってるサー

2.2. 聞き手にとって未知の事柄

聞き手にとって未知の事柄の場合，制限は(12)のようになり，例として(13)や(14)を挙げることができる。

(12) 「サ」の使用と聞き手の知識 2
聞き手にとって未知の事柄を表す文の場合，第三者や話し手自身の事柄を表す文ならばサは使える

(13) 第三者の事柄
a. （お腹を空かしている様子の C さんを傍目で見て）
A：ちゃんとご飯食べたのかな？
B：あの人はちゃんと食べたサー
b. （大学で共通の友人である山田さんがいない）
A：そういえば今週，山田さんの姿を見ないね。
B：山田さんなら今週から教育実習らしいサー。

(14) 話し手自身の事柄
（朝一番，会ってすぐに）今日おれ，宿題忘れちゃったサー

これと対比的なのは(15)で，例として(16)や(17)がある。

(15) 「サ」の使用と聞き手の知識 3
聞き手にとって未知の事柄を表す文の場合でも，聞き手の事柄を表す文ならばサは使えない

(16) 聞き手が気づいてない事柄
a. （髪の毛にゴミらしき物が付いている人に向かって）
*髪に何か付いてるサー
b. （財布を落としたのに気づいてない人に向かって）
*財布落としてるサー

(17)　聞き手の記憶にない事柄 1

（昨日とても酔っていた B さんから A さんに電話がかかってきた）

A：お前，酔っ払って電話してくるのやめろよな。

B：え，電話してた？

A：そうだよ。夜中におまえ何度も電話かけてきた{*サー／ヨ}。

(18)　聞き手の記憶にない事柄 2

（毎年来てる美味しいうどん屋に今年も来て）

A：いやあ，こんな美味しいうどん，初めて食べたなあ

B：え，おまえ，去年もここで食べた{*サー／ベサ／ショ}。

これらの例はいずれも聞き手にとって未知ではあるが，「サ」を使うことができないものであり，「サ」の使用には既知か未知かという知識状態ではなく，その情報が誰のものかというある種の所有が関わっていることを示している。

2.3. 情報のなわ張り理論による説明

以上の議論をまとめたものが(19)である。また，前節までに示した事実から分かることは(20)である。

(19)　まとめ

聞き手には既知か	誰に関する情報か	容認性判断	代表例
既知	聞き手	*	(9)
	第三者	*	(11)
	話し手	*	(10)
未知	聞き手	*	(16)，(17)，(18)
	第三者	OK	(13)
	話し手	OK	(14)

(20)　使用条件と聞き手の知識

「サ」の使用において，聞き手の知識の大小が鍵となるわけではない。重要なのはその情報が誰の領域（なわばり）にあるかである。

これを神尾(1990, 2002)による情報のなわ張り理論に沿って一般化を行いたい。情報のなわ張り理論の根幹となる前提は(21)に挙げたとおりである。

(21)　情報のなわ張り理論（神尾 1990，2002）

ある文の表す情報と話し手および聞き手との間に，一次元的な心理的距離の尺度を仮定する。その距離は〈近〉または〈遠〉の 2 つの目盛りにより測られる。

ここで関わるのは「話し手 vs.聞き手」という対立と「近 vs.遠」という対立であるため，組み合わせとしては 4 種類ということになる。それぞれの組み合わせと用例を以下に示す。

(22)　情報の遠近となわ張りの関係

a.　話し手と情報が〈近〉で，聞き手と情報が〈遠〉
　→話し手のなわ張り(A)

b.　話し手と情報，聞き手と情報がともに〈近〉
　→話し手，聞き手両方のなわ張り(B)

c.　話し手と情報が〈遠〉で，聞き手と情報が〈近〉
　→聞き手のなわ張り(C)

d.　話し手と情報，聞き手と情報がともに〈遠〉
　→どちらのなわ張りにも属さない(D)

		話し手のなわ張り	
		内	外
聞き手の なわ張り	外	A	D
	内	B	C

(23)　なわ張りの関係と終助詞の使い分け（以下の用例については村木 1989 も参照）

a.　A の状態
私，頭が痛い(??ね)
札幌の人口は 200 万人ぐらいですよ（京都人→東京人）

b.　B の状態
今日はいい天気です?? (ね)
君，ドイツ語うまい?? (ねえ)

c.　C の状態
君はテニスが上手い?? (らしいね)
お父さん，引退なさった?? (みたいですね)

d.　D の状態
明日も暑い??(らしいよ)
例の件は再検討することになった?? (みたいです)

これらの用例を見る限り，「サ」の使用条件は次のようにまとめられる。

(24)　「サ」の使用条件

a.　聞き手にとって既知＝×
b.　聞き手にとって未知＝△（聞き手のことには使えない）
→「サ」は「聞き手のなわ張り」に**ない**＝A，D
c.　伝聞の形式で使える＝話し手のなわ張りにあるかは関係ない（＝(13b)）
→A と D

2.4. 解釈との整合性

「サ」を含む文の解釈のひとつに「意外性」がある。例として(25)を挙げる。

(25)　意外性の解釈を持った例

a.　（アルバイト禁止の学校に通ってる生徒の話）
昨日，アルバイトに行ったっけ，まさかの担任が来たサー。

b.　（前回の授業を休んでた A さんが出席していた B さんに対して）
A：宿題ってなんかあった？
B：いや，なんも出なかったサー
※「宿題が出ていない」ことが意外であることを含意

(26)　((13)と対比)
（お腹を空かしている様子の B さんに対して）
A：なんかご飯食べる？
B：*もちろん食べるサー

(27)　当然≒既知だからと考えられるか？

ただし，「サ」を含む文の解釈は義務的なものではなく，文によっては対極にある「当然」という解釈を生むこともある。

(28)　「当然」の解釈だが「サ」を伴える例

A：(駅が近くにないけど)普段大学まで何で行ってるの？

B：晴れてたら自転車サー（当然というニュアンス）

今のところなぜこのような解釈の違いが出るのかは分からない。

2.5. 独話と対話

「サ」は独話との相性が悪い。これは独話では話し手と聞き手が一致しているからと理由づけられるが精査が必要である。

(29)　（一緒にコンサートに行くはずの相手がなかなか来なくて）

*おかしいなあ，もうコンサート始まっちゃうサー

3. 他の仮説の検討

3.1. 小野(1993)

小野(1993)に見られる「サ」に関する記述は(30)のようにまとめられる。また，用例は(31)である。

(30)　小野(1993)の記述

a.　サは，断定，主張，強調，発問，反駁などの表現に関わる

b.　この[＝体言で終わる(松浦)]ようなサには，統叙機能が託されていると考えられる。

c.　サは，自分の考え・気もち，そういう主観をあえて客観的にするような姿勢もうかがわれる。自分の考えの表明ということから，体言を直接受ける場合には，断定の効果が生まれてくるものと思われる。

(31)　小野(1993)の用例

a.　断定：顔がキューッと縮まるサー

b.　主張（ノサ）：今ねー。金ないノサ

c.　強調：もうひとつぐらいあったわサー

d.　発問（疑問詞を伴う）：今何時サー↑

e.　反駁：今日どうするノサー

断定，強調については，相互の境界がはっきりしないが，用例を見る限り本発表の主張と矛盾するものは見られない。また，発問，反駁については，多くは標準語のサと同じであり，北海道方言特有ではない。また, 本稿で示したような情報の所有者に関する言及は特に行われていない。

3.2. 井筒・井筒(2013)

井筒・井筒(2013)は認知言語学的アプローチによって「サ」の分析を行っている。要点をまとめると(32)のようになる。同様に例は(33)と(34)に挙げたとおりである。

(32)　井筒・井筒(2013)の記述

a.　北海道方言の「さ」は，聞き手にとっての新情報（と想定される）事柄への注意の誘導を促す

b.　北海道方言の『さ』には，自分の所有物や知識，経験，感情などについて，聞き手に「聞いてほしい」「知ってほしい」という話し手の態度が窺える。

c.　北海道方言の『さ』は，聞き手にとって新情報と推察される文に下接し，しばしば話題の「切り出し」にも使用される。

(33)　「聞いてほしい」，「知ってほしい」という話し手の態度

a.　[話者名]も最近教えてもらったサー

b.　(…)ってことでバスなう
なんか普通のバスでなくって
観光バスてきなのだから
席とかきれいださ♡

(34)　話の「切り出し」
これすげえ面白かったサ[雑誌の写真を指して]
これ 2，3 回乗った

このうち「新情報」に関する事実は本発表の指摘と同じである。しかし，「新情報」であれば使えるわけではない点を見逃している。

4. 「サ」に関する若干の言語学的記述

4.1. 音韻論

小野(1993)には疑問文における「サ」の用例が挙げられていた。

(35)　小野(1993)
a.　い]ま　な]んじ　サー↑
b.　どー]して　サー↑

しかし，本発表の話者に関しては，上昇調でサ(ー)が容認されることはなかった。この点については今後，さらに検討を重ねる必要があるだろう。

(36)　疑問詞，音調とサの容認可能性
a.　（時計がないのに気がついて）今何時サー{*↑／*↗／↓}？
b.　A：明日の約束だけど，ちょっと遅れそうなんだ。
B：そうなんだ。どうしてサー{*↑／*↗／↓}？
c.　A：明日，録画してほしい番組があるんだけど。
B：そうなんだ。何時からサー{*↑／*↗／↓}？

4.2. 形態論

4.2.1. 他の形式との共起

「サ」は名詞述語文においてダを伴いやすいが，必ず伴うわけではない。以下に例を示す。同様のことが形容動詞を述語に持つ場合にも言える。

(37)　（大学までの交通機関を聞かれて）
a.　雨だったっけ仕方ないから地下鉄乗るけど，晴れてたっけ交通費いたましいから自転車{ダサー／*サー}。
b.　A：いつもは何で行くの？
B：いや，晴れてたら自転車{サー／??ダサ}
※この場合，当然というニュアンスが入る

(38)　（ちょっと気を抜いていて話を聞いていなかったときに）
A：あ，ごめん誰の話？
B：いや，おばさん{サ／*ダサ}（おばさんだよ）

(39)　A：いやぁ，心配{ダサー／*サー}
B：なにがサ？
A：いやぁ，長く家あけるのに水道の水落としてこなかったサ
B：あ，そりゃだめダサな，しばれるべ。

(40)　形容詞述語文

a.　（沖縄に着いた友人から電話がかかってきた）
沖縄の海ってものすごい青いサー／透明{ダサー／*サー}

b.　（沖縄に行ってきた友人が思い出をいろいろと話す中で）
沖縄の海ってものすごい青かったサー／透明ダッタサー

この他「や」や「わ」と共起することもある。

(41)　サヤ

（うるさくて聞こえずじれったがって／同じことを何度も尋ねる人に対して）
さっきから言ってる{ベサヤ／ベサ／ベヤ／*サヤー／??サー}
※かなり激昂ないしは辟易したとき
※サーは話者が第三者に何度も言ってることを聞き手に訴えるときに限る

(42)　ワサ

（4 つあったはずのコップが 3 つしか見つからず，棚を探しているときに）
おかしいなあ，たしかにあと 1 つあった{ワサね／??ワー／??さー}。

4.2.2. 丁寧形

丁寧形に「サ」を接続することは，絶対に容認不可能というわけではないが，かなり相性が悪い。ただしこれは文法的な問題というより，改まった形（マス）とくだけた形（サ）の間にあるスタイルの差に起因する可能性が高い。

(43)　（お腹を空かしている様子の C さんを傍目で見て）
A：ちゃんとご飯食べたのかな？
B：あの人はちゃんと食べましたサー

(44)　a.　今日うち誕生日ださ/*今日わたし誕生日ですさ
b.　あいつ久々に学校きたさー/??先生久々に来ましたさー

(45)　（何度注意してもよくならない人がいて、注意している人に対して）
A：あいつのこと、ちゃんと注意してるのか？
B：（ちょっと怒り気味に）何度も注意しましたさぁ、でもなんも聞く耳持たないんだものぉ

4.3. 文タイプ

「サ」の可否と文タイプの関係として特徴的なのは依頼を表す場合に使えないことである。これは聞き手ではなく，第三者への依頼なら使える。

(46)　命令

（ご飯が残ってるけど遊びだした子供に対して）

a.　*遊ばないでご飯食べなさいサー
b.　*遊ばないでご飯食べろサー
c.　?遊ばないでご飯食べてサー

(47)　禁止

（ドリルを使って作業をしている人が来ようとしてる人に向かって）

a.　*こっち来るなサー
b.　*こっち来ちゃだめサー（すでに来ている人には言える）

(48)　依頼

a.　（同じ家の別の部屋にいる人に向かって）

*ちょっとこっちの部屋に来てくれるサー？

b.　ちょっとおじさんに来てほしいサー（おじさん≠聞き手）

(49)　意向

（休日の朝に，ダラダラしてる親に向かって子供が）

*せっかくの休みなんだから，海に行きたいサー

*暑いから海に行こうサー

(50)　来年はアメリカに行きたいサー（自己の願望）

5. まとめと今後の課題

5.1. まとめ

本稿では「サ」の意味について，その前の節（命題）にあたる意味内容が聞き手の領域に存在しないことを表すことを示してきた。

5.2. 今後の課題

本稿では「ノサ」の場合との対比や「認識の誤りの修正」に関して検討できていない。今後の課題とする。

(51)　ノサならば容認可能になる例

（夏休みに友人がバックパックで旅行するという話を聞いて，その友人に）

a.　いつまで行く* (の)サー？

b.　どの国に行く*(の)サー？

(52)　認識の食い違い

a.　「サ」は（＝(53)）

b.　のには使える（＝(54)）

(53)　自分に関する相手の誤った認識を正すのには使えない

（朝の学校で宿題をやっている B に向かって）

A：あー，宿題やらなかったんだ。

B：*違うサー。

(54)　「自分に関する」ものであって，それ以外の誤った認識を正すのには使える

（やたらと親しく女性と話す山田を見て）

A：山田って，彼女のこと好きなのかな。

B：違うサー

また，本稿では深く検討できなかったが，聞き手の知識に言及する場合，無限遡行に陥る危険性を持つ。この点を解決できる談話の理論によって検討する必要もあろう。

*本研究は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」の研究成果を報告したものである。

参照文献

井筒(成田) 美津子・井筒 勝信 (2013) 「「これって方言だったさ」：共同注意の観点から見た北海道方言の終助詞『さ』」『社会言語科学会第 31 回大会発表論文集』pp.146-149.

小野 米一 (1993)『北海道方言の研究』学芸図書.

神尾 昭雄 (1990)『情報のなわばり理論』大修館書店.

神尾 昭雄 (2002)『続・情報のなわばり理論』大修館書店.

益岡 隆志・田窪 行則 (1992)『基礎日本語文法　改訂版』くろしお出版.

村木 正武 (1989)「日本語表現論」井上和子(編)『日本文法小辞典』pp.213-266, 大修館書店.